

なぜなに やまもり

山や森についてもっと知ろう!

作業効率化のための新しい苗木の形態

山に植栽されるスギなどの苗木には、裸苗とコンテナ苗の2種類の形態があります。コンテナ苗は作業効率化のために新しく開発された形態で、山形県では約10年前から植栽されています。今では県内で生産されている苗木の半分以上がコンテナ苗となっています。コンテナ苗にはどんな特徴があるのでしょうか。

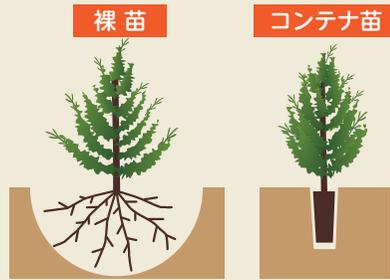
1 以前は、裸苗と呼ばれる形態の苗木が主流でした。裸苗は、畑で育てた苗木を引き抜いて根を裸状にしたものです。



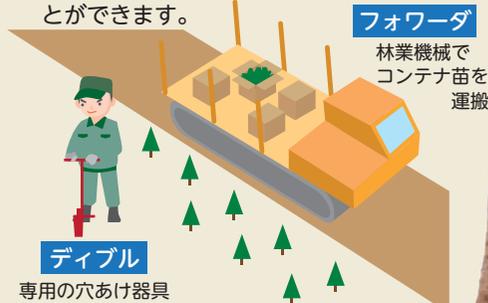
2 約15年前に林野庁などが中心となって、それまで主流だった裸苗に比べ、育成・植栽の手間がかからないコンテナ苗が開発されました。



3 植栽時を例に挙げると、裸苗は広がった根を収めるために、鍬である程度大きな穴を掘る必要がありましたが、コンテナ苗は根と土が一体になった根鉢が収まる大きさの穴でよく、専用の穴あけ器具を使えば誰でも簡単に植栽ができます。



4 その他にも、コンテナ苗は根が土と一体になっているため乾燥に強いことから、いつ伐採しても植栽ができます。そのため伐採作業で活用した作業路や林業機械を活用して植栽作業ができるので、造林にかかるコストを減らすことができます。



林業を省力化・効率化し、より安全で魅力的な産業にするためにもコンテナ苗は重要です。

※山形県では「やまがた緑環境税」を活用して、森林の有する公益的機能の維持増進のため森林を整備しています。

企業だって 森づくり♪

株式会社ウンノハウス 編

事業所には建築用の木材が山積みです!



天童事業所の倉庫の様子。毎日現場に運ばれていきます。



株式会社ウンノハウス 丹野 望 さん

どんな森づくり活動をしているの? 建築用材としてお付き合いの

ハウスメーカーである弊社は、毎日多くの木材を扱っています。建築に欠かせない木材のふるさとである森とは深いつながりのある業種なので、平成21年、創業50周年を記念して、やまがた絆の森づくりを始めました。

長いスギを育てることにしました。スギの苗木を千本ほど植え、それ以後、手入れを続けています。最初は小さかったスギも、14年育てると高さが5mを超えました。

スギ林をずっと見守る担当者

林業職の方なら当たり前かもしれないませんが、自分が植えた苗木の世話を10年以上続ける経験はかなり貴重です。急斜面に苦労して植えた、あの苗木たちが大きくなった姿は、良く育ったものだと感慨深いですね。子育てに似ています(笑)。



スギの苗木を植栽した当時の様子。斜面での植付けは本当に大変です!

社員の大切な交流の場

コロナ禍以前は、全社員でのイベントとして交流会等がありましたが、今は休止しています。だからこそ、この森づくり活動が以

前にも増して大事な時間になっています。社員みんなでスギの成長に驚き喜び、協働の保育作業で汗を流す時間。親睦を深めるには最高のイベントです。



年に3回の社員総出の貴重な活動。作業後は芋煮会の習慣あり(コロナ前)

大きくなる喜びと共に悩みも

愛着のあるスギ林が大きくなるのは嬉しいのですが、作業が大変になってきました。春先に積雪で倒れた木をまっすぐに戻す作



雪で倒れたスギをもとに戻す作業。大きいスギだと4、5人で行います。

業があります。当初は一人で十分でしたが、今は3人がかりです。今後は間伐作業など(スギの混み具合を調節する間引き作業)、プ口的の手も必要になってくるでしょう。



活動後の集合写真。植栽したスギはこんなに大きくなりました。

木材の生産ってすごい

日々、規格のそろった建築用材を扱っていますが、どれも最初は小さな苗木でした。長い時間をかけて、いろいろな人のご苦労によって良い木に仕立てられたからこそ、住宅の材料になれるのです。どの木も大切に使われないといけませんよね。それが実感できる森づくり活動は、ハウスメーカーに勤める者にとって大きな糧になっています。

★やまがた絆の森づくり推進事業★

企業などと森林所有者と県との三者協定による森づくり活動。令和4年12月現在、38企業・団体、36箇所で開催中。